

第 11 回総合計画策定幹事会 会議概要			
日	時	平成21年4月9日（木）午前10時～午前11時30分	
会	場	庁議室	
出	席	者	大崎幹事長、加藤幹事、筒井幹事、山本幹事、木内幹事、今井幹事、前田幹事、進藤幹事、小嶋幹事、木村幹事、山岡幹事、林幹事、鈴川幹事、入江幹事、守岡幹事、浅見幹事、岨中幹事、小西幹事、利倉幹事

## [議事]

### 1 キャッチフレーズについて

事務局から説明

《意見等》

- キャッチフレーズ案は、あまり長いフレーズについては使いたくないと考えています。できるだけコンパクトに、かつ印象に残るようなネーミングができればと考えている。
- ・3次総合計画から4次総合計画と、だんだん長くなっている。できるだけ短く、セルフプロモーションと言いますか、前の幹事会でも出ていたが、草津市をPRできるような言葉や「街道文化」「宿場町」等を入れてはどうかと考えている。職員のプロジェクト会議では「さすが草津」と自慢できるような言葉でも良いのではないかという意見も出ていた。
- この資料にある5本の柱から考えると、直感的には、まだまだ草津は変化して熟成していくように感じ取れるので、それを取り入れてはどうか。例えば、「めざす」という言葉のような、まだまだ変化して、もっといいまちになっていくと感じられるようなものはどうだろうか。
- ・「やっぱりくさつ」はどこからの提案か。良い感じではある。
- これはプロジェクト会議からの提案である。これも聞き取り方によっては、逆の意味で聞こえてしまうこともある。
- ・観光キャンペーンのキャッチコピーには良いかもしれないが、総合計画のものにしては、わかりにくい。それと総合計画自体のネーミングも考えているのか。
- それもプロジェクト会議にて検討します。「2020」は入れるべきではと考えている。
- ・この資料にある「自律」という「律」は、意図的にこの文字にしているのか。セルフコントロールが出来ていないように感じてしまうが。「律」は「立」の方が、地方分権の趣旨に沿っているのではないか。財政力が非常に弱いような団体については、自分で立つことができないという意味で「律する」を使うと理解している。草津市については、自分で「立つ」であろう。言葉の意味合いを説明し、理解してもらえれば良いと思うが。
- これは、主な課題の時に議論はされていたが、審議会の方で、「答えは8だが、それは3足す5なのか4足す4なのか1足す7なのかは自分達で決め、それを律しながらやっていくべきではないか」との意見が出た。

## 2 基本構想（素案）について

事務局から説明

《意見等》

- ・文化交流研究ゾーンの範囲が、前回資料に比べて南草津駅周辺まで広がっているが、何か意味はあるのか。ここに大規模住宅地できた時はどうするのか。都市マスタープランも来年見直しをする予定である、それとの整合はどうであろうか。例えばイオンモールの地域は共生ゾーンになっているが。
- 文化交流研究ゾーンの定義は資料の通りであるが、A先生とも、この地区には既に住宅地区が存在しているので、住宅のキーワードを入れないといけないのではという議論になった。しかし、他のゾーンについても住宅街があるので、それをしてしまうと区分をすることが難しくなってしまう。ですから、「主にどういうゾーンか」という理解をして貰いたい。前回までの議論で、ゾーン区分を細かくし過ぎると、国土利用計画や都市計画区域等と、整合が取りにくくなってしまい問題になるとのご意見をいただいていたので、このような区分となった。
- ・文化交流研究ゾーンについては、やはり修正前の範囲程度にしておくのが良いのではないか。中途半端に細かくするのでは、整合が取りづらくなってしまう。全体としてラインをぼやかすほうが良いのではないか。
- ゾーン区分については、ご意見を参考にして大きなエリアとして区分することも検討します。
- ・新名神高速道路の未整備区間について実線で表記してあるが、これで良いのか。都市計画道路も見直しをする予定である。十分に都市計画部局とも調整されたい。
- 外環状内環状道路を見直しするのであれば問題である。調整もしますが、この基本構想はパブリックコメントを実施することになっています。
- ・まちの構造の基本的な考え方の中に、「住みよさ」につながる特性とあるが、これには何があるのか。この基本構想の中に出てきているのか。
- この括弧の中（都市機能・・・）について、議論はありましたが、今進めておられる中心市街地活性化検討会議委員会の考え方を「基本的な考え方」の中に少し入れておいて欲しいとのことであった。

事務局から資料に基づき説明。

まちづくりの基本方向の説明

《意見等》

- ・「心地よさ」が感じられるまちへの施策の中で、天井川の平地化や上下水道の整備が項目になっているが、これはイメージからすると、「心地よさ」よりも「安心」が得られるまちへの方に分類すべきではないか。
- この区分は、概ね各課の施策、つまり各施策で分類している。前回は人権と安心の括りを一緒にし、産業だけをひと括りとしていて3つであったが、今回は4つの括りとした。元に戻すとすると、わかりにくくなる。この分類も、本当に「安心」であるものだけを括る等、市民生活スタイルに沿った形で表現できればどうかという意見もプロジェクト会議で出ていた。しかし、進行管理や事務事業の関係から、言葉は別にして、施策毎に分類するほうが、後々進行管理しやすいのではないかと考えている。ですから、産業建設部の基盤整備と環境の部分を一括りにした。ただ、「心地よさ」というものは、市民環境や生活環境、景観という言葉に影響されているので、安心が感じられることから心地よさが感じられると考えていただきたい。

・便利で快適という事を、一言で表現したのか。便利で快適の方がわかりやすのではないか。

→便利で快適を一言で表現したが、自然環境とか景観をかなり意識してこの言葉となった。

・アメニティという意味合いで、この言葉を選んだのか。

→便利で快適となると、どうしても都市基盤をイメージしてしまう。基盤整備的なものを、「安心」の分類に持っていくことになると、市民生活の視点に立った施策はリーディングプロジェクトで検討したいと考えているため、後の管理を考えると基本構想レベルではこの分類にしておきたい。括り自体は変えないが、そういった意見があったということで、整理はしたいと思います。

・「人」が輝くまちへの1番目にある項目で、目標と手段が並列で書いてあるのではないか。

→これについても、表現の修正をします。

・リーディングプロジェクトとは具体的には何か。実態はどういうものか。

→第4次総計の時は、重点プロジェクトというもので基本計画にあがっているものを重点的に整理した。今回は、もうワンステージ上の草津になるために、このような施策や事業をやれば良いのではといったことを考えてもらう。そこで上がってきたものが基本計画に落とし込まれるようにしていきたい。先にまちを引っ張っていくような施策を考えて貰おうということ。重点事業という意味ではない。例えば、「近隣SAFE・プロジェクト」というものであれば、地域コミュニティ主導のまちづくりを、どのような施策をすれば進めていけるのか、それをすることで地域が安全になったり、自分達でまちづくりを考えていってもらえる施策は、何があるのかということを考えてもらうことで、地域コミュニティの活性化と新しい市民自治を構築することに繋がっていく。それを進めるための施策や事業を職員に考えてもらい、それが基本計画の各施策に落とし込まれていくようなイメージを持っている。簡単に言うと、施策の集まり、事業の集まり。

・やり方はどのようになるのか。それを載せるのか。

→前は重点プロジェクトということで、5つのキーワードを作っていた。今回は、分野毎で全てあげていたものを、もう少し絞って、10年まちを引っ張っていくようなものを考えたい。

・この段階でそれを出さないといけないのか。実施計画等も考慮すると、何が重点なのか、何が先導的役割があるのかは、もう少し先の議論ではないのか。各分野で構想を作っていくものなのか。

→本来ならば、今年の11月ぐらいからと考えていたが、今の日程ではこれを載せることはできない。他の自治体の例はあるが、草津市は初めて実施するものであるため、まだ実態がない。

・各分野で構想を作っていくのか。どこかの課がそれを進めていくことになるのか。

→その施策は担当課で持ってもらうことになる。前回でいう重点施策、重点目標にかわるものであるとご理解いただきたい。前は、都市像実現のために、5つの施策を重点で実施して整理した、今回は「こういう事をやったら草津を良くしていける」という施策を考えて、ひとつの括り三つの括りにして、それが基本計画の施策にあがってくるイメージである。本来は先にこちらを考えるべきであったが、同時進行になってしまった。今はキーワードを出してこれから検討していくところ。基本計画の主要な課題で取り上げられている内容を解決しながら、引っ張っていけるようなもの考えてもらいたい。

以 上